



# Pro Rider's EYE Vol.12

中井 直道

## 二輪レーサー&スクールインストラクターの安全通信

安全な交通社会は  
「歩行者」から

今回で連載開始から1年を迎えました。

これまで運転者側の立場に立った安全意識のお話をしてきました。しかし、実は自動車など「乗り物」の運転よりも、さらに大切なことがあります。それはすべての交通に関わる「人」の安全意識です。運転免許証を持っている運転者は、それなりの運転技術と交通安全に関する知識を身につけています。しかし運転免許証を必要としない歩行者や自転車は交通安全に関してどのくらい意識を持っているのでしょうか？

たとえば、歩行者が横断歩道で信号が青に変わるのを待っているとき、車道に出そうな位置に立っているのを見かけます。走ってくる車との間隔は1メートルもありません。また、信号待ちの車の間を縫うように自転車で横断したり、横断歩道のない道路を平気で渡る歩行者を見かけます。最近では携帯電話に気を取られ、予測できない動きをする歩行者も見かけます。

非常に危険ですよ。ドライバーからすればそんな歩行者のおかげでヒヤッとするのです。では、何故そのような無謀な行動をとるのでしょうか？それは、交通における安全と自己責任の意識が低いからなのでしょう。



もちろん、ドライバーは歩行者を保護しなければなりません。とくに子どもやお年寄りの体の不自由な方は危険に気づきにくい場合があります。注意が必要です。

しかし、一般に歩行者は「交通弱者は保護されて当たり前だ」と意味を履き違えているのではないのでしょうか。

保護されるべき歩行者でも、信号を守らなかった場合などによる交通事故の際には、過失をしっかりと問われるのです。

以前に比べ、年間の交通事故死者数は5、000人を下回り、減少したとはいえ、多くの方が亡くなっているのが現状です。将来を担う子供の事故の報道を聞く度に心が痛みます。高齢者の事故も多く、これからは更に増えると言われています。

ですからまずは、歩行者の交通安全意識を高めるための環境が必要です。学校では子どもに対しての交通安全教育が不十分です。

ドイツでは授業の科目として交通安全教育があります。高齢者に対しては、あらゆる地域でもっと広く積極的に安全講習会などが行われればよいと思います。

そこで、考えてみてください。あなたも車を降りれば歩行者なのです。皆さんは歩行者になったときにどれだけ安全を意識し、ルールやマナーを守っていますか？

ドライバーのときは安全意識が高くても歩行者になった途端、横着な行動（信号無視など）していませんか？

免許証を持っている我々は、運転者の目線から危険を判断できるはずですが、車を降りて歩行者になったときにあなたの行動が他の歩行者の二本となって頂ければと願うのです。

それを意識すれば、またドライバーになったときに歩行者に対しては勿論のこと、他のドライバーに対しても、人を思いやれる運転ができ安全に繋がるのではないのでしょうか。



【なかい なおみち】  
87年にロードレース国際A級へ昇格しプロロードレーサーとなる。その後、全日本選手権に参戦。鈴鹿8時間耐久ロードレースでは19回の決勝進出を果たす。現在は一般ライダー対象のライディングスクールを運営するなど多方面でバイクの楽しさと安全なライディングを伝えている。